

首里城のプロフィール: かつての琉球王国の中心

2019年10月31日、那覇市にある世界遺産、首里城跡に再建された首里城で火災が発生、木造3階建ての正殿、北殿、南殿など6棟と奉神門が消失した。何度も焼失と再建を繰り返してきた首里城の歴史を振り返る。



火災中の首里城正殿 (写真: 共同通信)



首里城の正殿

Photo by CEphoto, Uwe Aranas or alternatively © CEphoto, Uwe Aranas



沖縄戦で失われたが、[康熙帝](#)の贈った「中山世土」扁額が本人の筆跡や落款を再現した上で復元され飾られていた。 Photo by CEphoto, Uwe Aranas or alternatively © CEphoto, Uwe Aranas, CC,

首里城はかつて存在した琉球王国の中心だった。1429年、尚巴志（しょうはし）が琉球（沖縄本島）を統一し、琉球王国が成立。1879年の琉球王国崩壊までの間、王国の政治・経済・文化の中心的役割を果たした。発掘調査などの結果から、最初に築城されたのは14世紀中葉～後半であることが判明している。その後、何度かの焼失、再建を繰り返し、1925（大正14）年に国宝に指定されたが、太平洋戦争末期の沖縄戦で焼失した。

今回の火災で焼失した首里城は1992年に再建されたもので、首里城公園の中心施設だった。国連教育科学文化機関（ユネスコ）は2000年、首里城跡を含む「琉球王国グスク（城）および関連遺産群」を世界遺産登録した。

首里城の歴史

14 世紀	首里城創建
1429	琉球王国が成立
1609	薩摩藩が琉球侵攻
1660	首里城焼失
1672	首里城再建
1709	首里城焼失
1715	首里城再建
1853	ペリー提督が首里城訪問
1872	琉球藩設置
1879	明治政府による「琉球処分」で、琉球王国崩壊、沖縄県誕生
1925	首里城正殿が国宝に指定される
1945	太平洋戦争の沖縄戦で首里城焼失
1989	首里城復元工事に着手
1992	国営・首里城公園開園
2000	首里城北殿にて「九州・沖縄サミット」社交夕食会開催
2000	「琉球王国のグスク（城）および関連遺産群」が世界遺産登録
2019	火災により焼失

記事及び年表は、沖縄首里城公園ウェブサイト、文化庁世界遺産オンラインなどの記述を参考として作成した